

## テモテ第二 1章 5-7節

## 「母の愛と祈り」

1:5 私はあなたの純粋な信仰を思い起こしています。そのような信仰は、最初あなたの祖母ロイスと、あなたの母ユニケのうちに宿ったものですが、それがあなたのうちにも宿っていることを、私は確信しています。1:6 それですから、私はあなたに注意したいのです。私の按手をもってあなたのうちに与えられた神の賜物を、再び燃え立たせてください。1:7 神が私たちに与えてくださったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です。

皆さんおはようございます。今日は母の日ですね。今日は特に聖徒たちの母を神に感謝したいと思います。また、約 2000 年前の初期の教会から今まで、幾度となく神が「母の祈り」を通して働かれてきたことに注目して御言葉を見ていきましょう。神は純粋な真の信仰を次世代へと受け継ぐために、母の祈りを通して働かれます。今日の聖書箇所は、使徒パウロからテモテにあてられた書簡の二つ目、テモテ第二です。テモテは、パウロの若い弟子でしたが、最終的にパウロにとって最も信仰深い弟子であり、福音にあって共に働く仲間となりました。

5 節を見ると、純粋な信仰と表現されていますが、聖書では神の救いの祝福のすべてが、真の信仰を通して与えられていると教えています。これは、神の恵みの賜物として与えられたものですが、ここではそれがどのようにその世代から次の世代へと受け継がれるのかを見ることができます。使徒パウロはテモテに「この純粋な信仰が最初あなたの祖母ロイスと、あなたの母ユニケのうちに宿ったものですが、それがあなたのうちにも宿っていることを、私は確信しています。」と言っています。私たちはここで、純粋な信仰が自動的に受け継がれるなどと間違っただけでなく、注意しなくてはなりません。それは親から子へ、自動的に引き継がれるものではありません。

私は、御言葉からも、経験からも、この教会の 2000 年の歴史の中で、純粋な信仰が幾度となく母から子へと受け継がれてきたと信じています。それは、お母さんという存在は、自然と誰よりも子どものために祈るものからです。そのような例は教会の歴史全体を通して数えきれないほどあります。神の御国の力強い働きのために仕え、用いられていた神の子たちを見れば、それが母たちの祈りを通して神が働かれた結果だと分かります。特に一つ挙げるなら、最も愛されている讃美歌の一つであるアメイジング・グレイスを書いたジョン・ニュートンの例があります。彼は奴隷売買人として奴隷船の船長となり、罪と恥に満ちた生活を送っていましたが、劇的に変えられたのです。彼がいつものように奴隷船に乗っていたある日、彼は嵐に遭い命の危険に直面し、神に祈りました。そして嵐がなだめられるのを経験したことから、聖書の中に神を求め、聖書やクリスチャン書物を読みあさるようになりました。そして彼は最終的に真の信仰者となり、英国における奴隷廃止制度の立

役者の一人となったのです。ジョン・ニュートンの母は主イエスの信者でした。彼女は、ジョンが7歳になる2週間前に結核で亡くなりましたから、ジョンは7年にも満たない月日しか、信者である母からの影響を受けることはありませんでした。ですが、それでも彼女が召されてから何年も経った後で、神は忠実に彼女の祈りを聞かれたのです。ただ、彼に救いが与えただけではなく、彼は奴隷売買人から福音を告げ知らせる聖職者として作り変えられたのです。このような例を、テモテの時代から現代まででも沢山見ることができます。恐らくテモテの育った環境や彼の両親が国際結婚だったという境遇のためでしょうか、なぜかは明確ではありませんが、テモテは臆病で怖がりの若者でした。それで、ここでパウロは「神がお与えになるのはおくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です」とテモテを鼓舞しなくてはなりません。ですが、たとえそのように臆病だったテモテでさえも、神は力強く用いられました。テモテは、パウロの仲間の中でも、最も信仰深い者となりました。パウロの仲間として共に最後まで忠実に働いたのは、テモテと、ルカによる福音書と使徒言行録を書いたルカの2人だけでした。

この前の水曜日に、神は私にこの聖書箇所について話すようにと、明確に力強く示してくださいました。この聖書箇所を通して、純粋な信仰が、主イエスを救い主として愛する母の愛と祈りによって次の世代へと引き継がれていくことを見ることがでるのです。その同じ水曜日、神がこの箇所に導かれる過程で、北アイルランドに住む4歳年上の私の兄が、ある動画のリンクを送ってきました。その動画は、重度の髄膜炎で瀕死になった6歳の少女が生還した奇跡にまつわるものでした。その少女の両親は、彼女と一緒に祈ったこともなければ、聖書やイエスについて教えるなど、信仰については一切何も彼女に教えたことはなかったのですが、意識不明にまで陥った後、意識が戻った時に彼女は「今から眠りにつきます。神様私をお守りください。」と祈ったのだそうです。この祈りを教えるクリスチャンの両親はそんなに多くありませんが、奇跡的なのは、少女の祖母がお母さんにこの祈りを教えたことはあっても、お母さんが少女にそれを教えたことはなかったということです。教えたはずのない祈りを祈った彼女を見て、両親は彼女が意識を失った時、一度天を経験したのだと確信しました。それ以外、その祈りができる理由が考えられなかったからです。

この動画を見て、神が全く同じ方法で私の人生の中で働かれたことを思い起こしました。神が母の純粋な信仰を用いられたのです。もっとも、私が患ったのがこの少女と同じ病気、髄膜炎だったと私は最近まで知りませんでした。2015年の終わりに私の父が天に召された時、私の兄がそのことを教えてくれました。幼い私が病院に運ばれた時のことで私が覚えているのは、ひどい痛みが足にあり、それは足を動かしたり歩いたりすることができないくらいの痛みだったということです。以前父がどのようにしてクリスチャンになったのかを証してくれたことがありましたが、父が救われたのは、母が主を人生にお迎えして信仰者になってからわずか数か月後のことでした。父も、家族全員が教会に通っていましたが、父自身はイエスを受け入れて信仰者となる決心をできないでいました。そこで私の病気の話に戻るのですが、入院した病院で、医師が父を呼び出し、私の熱がひどく、コントロール不能でとても危険な状態なので、足を切断することを考えた方がいいと告げまし

た。その日の夜、父は仕事で夜勤でした。唯一、職場で1人になって祈れる場所だったので、父はトイレで祈り、キリストを主としてお迎えし、翌日帰宅してから母にそのことを伝えました。驚くことに、まだ信者になってから数か月と日の浅い母が、それを聞くとすぐに「ヒューが帰ってくるわ。洋服を準備しなくっちゃ。」と言ったのです。母の子どものように純真な信仰が、神がこの病気を良いことのために用いられたのだと、つまり父が救われ、信仰を持つために用いられたのだと見定めることを可能にしたのでした。先ほどの6歳の少女は2日ほどで解熱し、何事もなかったかのように帰宅することができたのですが、同じことが私にも起こったのです。母が私の洋服を準備しようと言ったその日に、私の熱は下がりました。医師が足の切断の可能性を父に話した翌日に、です。熱が上がった翌日に、私も何事もなかったかのように帰宅することができたのです。私がもう一つ覚えていることと言えば、しばらく何も食べていなかったのでお腹がすいた私が、病院のベッドで一杯のトマトスープをもらい、こんなに美味しいトマトスープは飲んだことが無いと感激し、お代わりをしたことくらいなのですが。

くり返しになりますが、神は母、祖母、もしくはその両方の純粋な信仰を、子どもたちを信仰へと導き、彼らがイエスを知るために用いられます。またそれだけではなく、先ほどの例のように、神が私たちの命を御手に取り、作り変えて神の御国の御業のために用いられることもしばしばあるのです。私自身に救いが訪れたのは20歳になった時でした。20歳の時私は刑務所に居ました。3年間政治的衝突の中で起こったテロ活動に関わり、政治犯となって収容されてしまったのです。その刑務所は、1970年代には世界で最も危険な「爆弾の町」にある世界で最悪の刑務所として知られた場所でした。それはちょうど43年前の1978年5月7日のことです。20歳の私は、日曜日の午後に、「ベン・ハー」という映画を他の囚人たちと一緒に見ていました。その映画では、特に処刑のシーンを中心にキリストの生涯が描かれたものです。私はクリスチャンになることなど全く考えていませんでしたが、キリストが十字架にかかるシーンを見ていると突然、そのシーンの中でそこに居る群衆と一緒にキリストを十字架にかけている自分自身の姿を見たのです。それはとてもショックなことでした。なぜなら、私自身は映画を見ながら、自分は不当な扱いを受けて苦しむ善良な人側、キリスト、そしてベン・ハーの側の立場にいたかと思っていたからです。ですから、自分が実は反対側で「十字架にかけろ！」と叫ぶ群衆の一部であることに気づいたときはショックでした。神は、私の罪が、全世界の罪と共に御子を十字架にかけたことを気づかせてくださり、私を悔い改めに導かれました。そしてその翌日の5月8日、ですからちょうど43年前の昨日、私がいつも運動したりトレーニングしたりして時間を過ごした刑務所の運動室での出来事です。その日は、私は一人でそこに居たのですが、いつものようにトレーニングや運動ができずにいました。するとその時に絶妙なタイミングで、他の囚人が掃除のために運動室に入ってきました。私は、その人が少し前にその刑務所でクリスチャンになったことを知っていたので、彼に「僕も救いにあずかりたいんだ」と言いました。すると彼はその場で一緒に祈ろうと言ってくれました。私たちは2人でひざまずき、

彼は、私が主を心にお迎えするための簡単な祈りを手助けしてくれました。「イエス様、私の心にお入りください、私の主となり、私の罪をお赦してください。」と。そして、劇的に私の人生は変えられました。その祈りをささげた瞬間が、神が私の母の祈りに応える時として選ばれた時であり、私はキリストにあって悔い改めと救いへと導かれたのでした。

クリスチャンになって数か月経った時、祈り方を学び、聖書を毎日読んでいました。ある日祈っていると、神が私に5つの異なったシーンをお見せになりました。そのシーンはいずれも、私の人生を振り返った時、私が今生きていることが奇跡的としか言えない、決して説明がつかないような状況で命が助かった経験の数々でした。私は死んでしまってもおかしくない経験を沢山していたのです。私は、神様を知らなかったのも、そのことが起こった時は自分がラッキーだと思っていました。ですが、この日これらの状況を神がお見せになった時、神は「あなたはラッキーだったのではない。あなたはずっと祈られてきたのだ」と言われたのです。神は、そのことが祈りの答えであったことをお示しになりました。特にそれは私の母の祈りであったでしょう。そして母は私たち息子のために祈って欲しいと他のクリスチャンの方にも頼んでいました。神は、私が生きているのは祈りの答えであるとはっきり示されたのです。刑務所を出所した最初の日に母は、私のために祈ってくれるようお願いした教会の人たちのうち、ある高齢の男性のことを私に話してくれました。彼は、毎朝教会にある部屋を朝5時に開けて、仕事や学校に行く前に祈りたいと思う人が部屋を使えるようにしてくれていた人でした。その男性は私に、「これから人生で何をするにしても、自分の人生、将来、夢、望むものもすべて神に完全に明け渡さないといけないよ。すべて明け渡して、神が御心を示してくださるように求めるんだ。」と言ったそうです。ですから彼のアドバイス通りに私はそうしました。言われたように祈りはじめ、そして人生の一步一步を神が導かれ、歩むたびに、神は私の人生を明け渡すようにしてくださいました。それから一年半くらいしてからのことです。私の祈りの答えとして、私の人生における神のご計画・御心がすぐそこまで迫っていると強い確信が与えられ始めました。そしてある日、真夜中に熟睡していたところ突然目が覚めたので何かと時計を見ました。すると時間はまだ朝の3時でした。神が私を早朝に起こし祈るようにされることは良くあることでしたが、朝の3時となると、少なくともあと1時間は寝れると思ったのですが、実はその日は英国ではサマータイムに切り替わる日だったので、実際には3時ではなく4時であることに気づきました。ですから私は起きて祈ることにしました。すると、ベッドから身を起そうとした途端に、神のご臨在がその部屋を満たしました。それは私が今まで経験したことのないようなものでしたが、すぐに神のご臨在の中に自分がいるのだと気づきました。そして神は私に語りかけられました。その時に祈り読んだ聖書箇所は、イザヤ52章でした。そして、神は本当に私の祈りに応え、ご自身のご計画と御心をお示しになるために私を起こされたのだと分かったのです。

イザヤ 52:7 「52:7 良い知らせを伝える者の足は山々の上にあつて、なんと美しいことよ。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、『あなたの神が王となる』とシオンに言う者の足は。」

このイザヤ書の御言葉を通して私は、その朝神が私を平和の福音を述べ伝える働きに召しておられると知りました。そして、「ではどこへ行くべきなのでしょう、神よ、あなたは私にどこで福音を述べ伝えてほしいとお思いですか」と祈りはじめました。すると数週間以内に、神は私を宣教師として日本へと召しておられると気が付き始めました。そしてその同じ年しばらくしてから、宣教師としての訓練を受けるために神学校に応募し、母に「神が私を宣教師になるように召しておられる」と伝えました。すると母は聖書を持ってきてローマ書 10 章 15 節を開いてくれました。

ローマ 10:15 「遣わされなくては、どうして宣べ伝えることができるでしょう。次のように書かれているとおりです。『良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとりっぱでしょう。』」

この箇所は、神が母に与えた聖書箇所でしたが、これはまさしく、パウロがイザヤ 52 章 7 節から引用した箇所なのです。つまり私が神に与えられた箇所と同じ箇所だったのです。その時母は、子どもたちの救いのために祈ってきただけではなく、息子たちのうちの一人でも、神の働きのために召されるようにと祈ってきたと初めて私に教えてくれました。人生の中で何度も身体的に命を救われてもその後も政治的衝突に巻き込まれ、テロ活動に関わった私が、刑務所を経て劇的に変えられ、宣教師としての働きに召されたのです。そしてそれはすべて、まさしく私の母が祈っていたことでした。

このように、子どものような純真な母の信仰を神が用いられるという実例が、教会の歴史を通して数多くあります。自分の子どもたちと家族のために祈る母の信仰です。今日、私が確信していることは、あなたが誰かのお母さんやおばあさんであるなら、もしくは、あなたが独身の女性でも、神はご自身の働きのうちにあなたに対する特別な場所を用意されているということです。今までも沢山の宣教師が偉大な働きをしてきましたが、今私が特に思い浮かべるのは、世界的によく知られている宣教師エイミー・カーマイケルです。先日生まれた私の 7 人目の孫娘が、同じエイミーという名前だからかもしれません。エイミー・カーマイケルは、私の故郷、北アイルランド出身でしたが、インドにおいて宣教師としてとても力強い働きをしました。エイミー・カーマイケルのように、結婚したことも、肉における子どもは持ったことはなくとも、霊における子どもを沢山授かった素晴らしい女性がたくさんいます。ですから、今日すべての女性を勇気づけたいのは、神は御国のための目的やご計画の中に、あなたのために特別な場所を用意されているということです。神は母、祖母、妻、独身の女性の祈りを偉大な方法で、御国のため、神の栄光のために用いられるのです。ですから、たとえ状況が悪かったとしても、私の母のように、祈っても、祈っても状況が良くなるどころか悪くなり、祈れば祈るほどサタンがあざ笑うように思える時でも、決してあきらめずに祈ってください。私が刑務所に居た時に突然「救われたよ」と母に伝えた時、父は信じることもできず「様子を見よう」と言ったほどでしたが、母はピョンピョン飛び跳ねるほど喜びで満たされました。ですから、女性の皆さん、神はあなたの祈りを、あなたの人生において様々な方法で用いられると覚えていてください。